

国立療養所星塚敬愛園・沿革【詳細版】

(○は全国の出来事、※は看護学校関連、入園者 50 年誌と創立 70 周年記念誌より抜粋)

昭和 6 年 4 月 2 日	○癩予防法（法律第 58 号）成立
昭和 10 年 5 月 20 日	内務省告示第 342 号で、国立療養所星塚敬愛園の設置が決定。
昭和 10 年 10 月 5 日	林文雄、星塚敬愛園長に任命
昭和 10 年 10 月 28 日	開園式を挙行（病床 300 床）
昭和 10 年 11 月 2 日	鹿児島県、福岡県、宮崎県より患者 23 名が初めて入園
昭和 10 年 12 月 5 日	沖縄県より患者 129 名が入園
昭和 10 年 12 月 6 日	鹿児島県下大島各島より患者 116 名が入園
昭和 11 年 1 月 8 日	入園中の学齢児童のため敬愛学園を開設
昭和 11 年 4 月 28 日	敬愛保育所楓光寮開所式
昭和 11 年 10 月 1 日	※附属 看護人看護婦講習所を開設
昭和 12 年 4 月 29 日	敬愛園図書館竣工、一室を敬愛学園の教室に使用
昭和 12 年 4 月	敬愛園歌 作詞・久木田兼光（入園者）、作曲・山田耕筈
昭和 13 年 3 月 1 日	患者収容定員 700 名に改定
昭和 13 年 5 月 28 日	楓公園竣工式
昭和 14 年 3 月 13 日	敬愛納骨堂落成
昭和 14 年 10 月 28 日	皇太后御歌碑除幕式挙行
昭和 14 年 4 月 30 日	鹿児島県下大島各島より患者 138 名収容
昭和 14 年 8 月 20 日	患者収容定員 825 名に改定
昭和 14 年 12 月 1 日	※看護人看護婦養成所指定
昭和 15 年 10 月 18 日	礼拝堂落成式
昭和 16 年 7 月 1 日	患者収容定員 1,125 名に改定
昭和 16 年度	新入所患者数 642 名（最大）
昭和 18 年 2 月 11 日	敬愛橋完成、恩寵会館、敬愛学園、健児寮完成
昭和 18 年 3 月 19 日	乙女寮、父の家、水仙寮、白梅寮、自動車車庫完成
昭和 18 年度	年度末患者数 1347 名（最大）
昭和 19 年 2 月 10 日	塩沼英之助、星塚敬愛園長に任命
昭和 19 年 3 月～8 月	米軍による空襲により入園者 8 名死亡
昭和 20 年 8 月 15 日	○第二次世界大戦終戦
昭和 20 年 10 月	選挙法改正により、入所者に選挙権・被選挙権が認められる。
昭和 21 年 1 月 1 日	星塚敬愛園患者自治会発足
昭和 21 年 4 月	園内通用券を廃し日本銀行券との交換完了
昭和 21 年 11 月 18 日	国立癩療養所星塚敬愛園から、国立療養所星塚敬愛園へ名称変更
昭和 22 年 4 月	看護婦による病棟看護の開始（それまでは入園者による付添看護）
昭和 22 年 10 月	○敬愛園第 3 代自治会長金丸正男の呼びかけで、五療養所患者連盟発足（本部・星塚）
昭和 22 年 11 月	第 20 回日本癩学会総会開催（敬愛園）
昭和 23 年 6 月 1 日	自治会機関誌「始良野」創刊
昭和 24 年 3 月 21 日	プロミン獲得大会開催

昭和 25 年 4 月 10 日	鹿屋市大始良中学校と西俣小学校の星塚分校が開校
昭和 26 年 2 月	○全国らい患者協議会（全患協）設立
昭和 27 年 3 月 1 日	看護婦の三交替制実施（結核病棟）
昭和 27 年 4 月	※附属准看護学院に改組
昭和 27 年 9 月 1 日	大西基四夫、星塚敬愛園長に任命
昭和 27 年 9 月 10 日	キリスト教会堂の献堂式
昭和 28 年 6 月	らい予防法改正案に対し、患者がハンスト・患者作業ストに入る。
昭和 28 年 4 月 14 日	プロミン治療による第一号退園者を送別
昭和 28 年 8 月 15 日	○らい予防法（法律第 21 号）成立
昭和 29 年 7 月	病棟付添看護を職員へ切替える（精神病棟を除く）
昭和 29 年	入院定床 1530 床（最大）
昭和 30 年 6 月 25 日	新設運動場開き
昭和 30 年 6 月 25 日	邑久高等学校新良田分校に敬愛園から 4 名入学。
昭和 30 年 10 月 28 日	創立 20 周年記念式典挙行
昭和 30 年 12 月 28 日	カトリック聖堂献堂式
昭和 31 年 1 月 1 日	鹿児島事務連絡所設立
昭和 32 年 4 月 16 日	仏教会館落慶式
昭和 34 年 3 月 31 日	治療棟更新築工事竣工
昭和 35 年 12 月 1 日	星塚簡易郵便局開設式挙行
昭和 37 年 8 月 27 日	入園者自動車講習会始まる。
昭和 37 年 9 月 19 日	天理教会館落成
昭和 39 年 5 月 1 日	東家 齋、星塚敬愛園長に任命
昭和 39 年 6 月 8 日	患者作業全面放棄（ストライキ）
昭和 40 年 2 月	不自由者棟病棟看護職員切替が始まる。
昭和 40 年 10 月 28 日	創立 30 周年記念式典ならびに公会堂落成式
昭和 41 年 2 月 4 日	一般作業の職員切替が始まる。
昭和 42 年 2 月 15 日	星塚分校最後の卒業式
昭和 44 年 6 月 11 日	回復者授産を目的として大島紬織開講
昭和 44 年 6 月 24 日	回復者のための庇護授産施設ダンボール機械設置
昭和 45 年 5 月	高齢者会発足
昭和 46 年 6 月 25 日	高松宮両殿下来園
昭和 46 年 10 月 30 日	盲人会館落成式
昭和 47 年 9 月 15 日	皇太子殿下、美智子妃殿下下来園
昭和 47 年 9 月 26 日	敬愛園納骨堂竣工式
昭和 49 年 4 月 28 日	太陽会館（創価学会）落成
昭和 49 年 11 月 20 日	リハビリレクリエーション開始
昭和 50 年	※附属准看護学校と改称
昭和 50 年 10 月 28 日	創立 40 周年記念式典
昭和 50 年 12 月 31 日	大島新之助、星塚敬愛園長に任命
昭和 51 年 2 月 1 日	星塚ゲートボール会結成
昭和 52 年 7 月 23 日	鹿屋市ゲートボール大会に星塚ゲートボール会初参加

昭和 52 年 12 月 1 日	面会人宿泊所「星塚荘」竣工
昭和 53 年 8 月 13 日	第 1 回夏まつり納涼大会
昭和 54 年 4 月 2 日	※附属看護学校（全日制進学課程 2 年制）を開設
昭和 54 年 4 月 16 日	医師獲得総決起集会を本館前で開催。医師不足深刻
昭和 54 年 5 月 10 日	鹿児島県ゲートボール大会で星塚チーム優勝
昭和 54 年 5 月 10 日	第 4 回全国ゲートボール選手権大会で星塚大朋チーム優勝
昭和 55 年 10 月 17 日	高齢者会館落成
昭和 57 年 4 月	星塚カラオケ同好会発足
昭和 57 年 5 月	第 54 回日本らい学会総会開催（鹿児島市）
昭和 58 年 6 月 24 日	高松宮来園
昭和 58 年 11 月 1 日	大島新之助園長逝去。同 24 日、公会堂で職員・入園者による合同葬
昭和 59 年 1 月 1 日	鈴木正和、星塚敬愛園長に任命
昭和 59 年 1 月	入園者女性が初めて 100 歳を超える。
昭和 60 年 10 月 28 日	創立 50 周年記念式典
昭和 62 年 10 月 1 日	健康保険で一般外来者診療を開始
昭和 63 年 6 月 27 日	将来構想検討委員会設置
昭和 63 年 10 月 25 日	医療事故で 2 名が死亡
平成 4 年 4 月 1 日	今泉正臣、星塚敬愛園長に任命
平成 4 年 7 月 22 日	新盲人会館落成
平成 5 年 8 月 3 日	集骨堂完成慰霊式
平成 6 年 6 月 21 日	高齢者会館落成
平成 6 年 6 月 24 日	旧図書館が解体され、開園当初からの建物は全てなくなる。
平成 7 年 10 月 28 日	創立 60 周年記念式典
平成 7 年 10 月 31 日	三笠宮妃信子殿下来園
平成 8 年 4 月 1 日	○「らい予防法の廃止に関する法律」施行
平成 9 年 7 月 10 日	新敬愛納骨堂落成
平成 10 年 7 月 31 日	○星塚・菊池の入所者 13 名が「らい予防法違憲国家賠償請求訴訟」を熊本地裁に提訴
平成 12 年 3 月	第 73 回日本ハンセン病学会総会開催（敬愛園）
平成 12 年 7 月 31 日	新敬愛橋開通式
平成 13 年 4 月 1 日	※統廃合のため、附属看護学校が閉校となる。47 年間に、准看護課程 408 名、看護課程 572 名が卒業。
平成 13 年 5 月	○国家賠償訴訟熊本地裁判決・原告勝訴、小泉首相控訴断念を表明
平成 14 年 9 月 1 日	有川 勲、星塚敬愛園長に任命
平成 14 年 7 月 24 日	園内火葬場廃止
平成 15 年 1 月 1 日	交流会館新築落成
平成 16 年 6 月 20 日	鹿児島県主催ハンセン病啓発交流会(公会堂)
平成 17 年 6 月 22 日	創立 70 周年記念シンポジウム「星塚敬愛園の過去、現在、未来」開催
平成 17 年 10 月 28 日	創立 70 周年記念式典
平成 20 年 1 月 11 日	母の胸に抱かれることなく逝った子供達の合同慰霊祭・記念碑除幕式

平成 21 年 4 月 1 日
平成 21 年 4 月 1 日

○「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」施行
後藤正道、星塚敬愛園長に任命

平成 21 年 7 月 3 日現在